

## 1 研究主題

### 卒業後の生活につながる授業づくり ～生徒の自己評価方法の工夫をとおして～

## 2 研究テーマ設定の理由と研究の方針

高等部では前回の研究（R 2～R 3）で、「学びに向かう力をはぐくむ授業づくり～観点別評価を通じた体系的な取り組み～」をテーマとして、新学習指導要領の3観点に基づいた授業の目標立てや自己評価項目の設定をし、より効果的に授業実践することを目指して取り組んだ。

今年度、高等部では全校研究テーマにある「豊かな学び」を「卒業後の生活につながる力」ととらえ、この「卒業後の生活につながる力」を育むために、前年度までの研究の取り組みを踏襲しながら、生徒の多様な実態に応じた自己評価方法の工夫を目指すこととした。自分の学習や行動を適切に振り返る（評価する）力を育くむことで、進路決定や卒業後の生活に生かすことができるのではないかと考えた。

この研究は2年次計画で行う。1年次目である今年度は自己評価方法の検討を行い、2年次目では、自己評価による生徒自身へのフィードバックが他の教科や行事にも応用できるように、年間指導計画を活用した教科間の連携を図る取り組みを行うこととする。

## 3 推進計画

### 1年次目の研究推進計画

月 日	研究活動	内 容
4月21日	第1回全校研究会	
5月17日	グループ研究会①	研究の進め方について検討・確認
6月22日	グループ研究会②	研究内容の詳細について、小グループ編成
7月21日	グループ研究会③	自己評価シートの様式について提案、小グループごとに検討
9月5日	グループ研究会④	自己評価シート使用開始
11月17日		iPad 事例研究会
12月9日	研究授業	作業学習「環境班」、2A「現代文」
12月20日	グループ研究会⑤ (授業研究会)	研究協議「生徒の実態に応じた自己評価の仕方、支援方法」
1月23日	グループ研究会⑥	グループ研究のまとめ
2月14日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

## 4 授業（研究）実践

### (1) 研究内容

- ① 自己評価方法の検討（自己評価シートの見直しと作成）  
生徒の教育課程を基準に次の2グループに分けて取り組む。

グループ名	グループ分けの基準	主な研究対象教科
A グループ	病弱・肢体不自由（通常） 教育課程担当	各教科
C グループ	知的障害（通常、重複）、病弱・肢体不自由（重複） 教育課程担当	作業学習 ※さらに作業班ごとに5グループに分かれる。 （農耕班、環境班、工芸班、縫製班、紙工班）。

② 自己評価シートを活用した研究授業

AグループとCグループから1つずつ授業提案を行う。

(2) 研究実践

①Aグループ 「ふりかえりシート」の活用（図1～図3）

ふりかえりシートの活用にあたっては生徒の実態に考慮して次のように取り組んだ。

- ・各教科において、生徒の実態に応じながら毎時または単元の終わりに取り組むこととした。（図1）
- ・記述式が難しい生徒もいるため、A～Cの3段階で評価する様式も作成した。（図2）
- ・iPad (Forms) を使用して、アンケートのように取り組んだ。（図3）

図1

図2



図3

Aグループ 「ふりかえりシート」活用の結果	
自己評価における生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式だと「～できた」「～できなかった」だけの記述になる。具体性のある自己評価を行うことが課題。</li> <li>・学習活動に書かれている文言の意味を生徒が理解できていないため、自己評価につながりづらい。</li> </ul>
改善案と具体的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの視点、よりよい自己評価の仕方、苦手分野に関する勉強方法などを生徒の実態に応じて具体的に補助説明したりコメントしたりして生徒に返す。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が気づくことができるように「～したのはよかった」と具体的に声がける。</li> <li>生徒が自己評価方法を理解できるように、継続して繰り返し取り組む。</li> <li>自己評価と定期考査等の結果を照らし合わせ、自己評価と実態の整合性を確認する場を設ける。</li> </ul>
生徒の変容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットに入力する方法は、生徒も興味をもって主体的に取り組みスムーズに行うことができた。</li> <li>教科間で様式をある程度統一したことで、生徒が迷いなく取り組むことができた。</li> <li>学習した内容について理解できているか、自分で再確認する様子が見られた。</li> <li>指導者の助言に基づいた自己評価を試みている。</li> <li>以前より課題が明らかになり（頑張るポイントがはっきりし）、自己評価もよくなった。</li> </ul>
課題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに難易度のばらつきがあり、評価への変容はみられていない。</li> <li>単元が1時間で完結するものではないので、ふりかえりシートに毎時間取り組むことにはならない。毎時間行うとなると3観点を満たしにくい。</li> <li>様式はある程度統一していたが、どの教科でも同じ内容の評価項目があるとよい。</li> </ul>

② Cグループ 「作業日誌」と「ルーブリック評価表」の活用  
(図4～図5)

活用にあたっては生徒の実態を考慮して次のよう  
に取り組んだ。

- 生徒ができるだけ自分で自己評価できるように作業日誌様式の見直しと作成 (図5)
- 昨年度使用していた「ルーブリック評価」の項目や内容の見直し (図4)

評 価	観 点
3	・まちがったの欄にならないうまく書けてきた。
2	・まちがったの欄にならないうまく書けてきた。すぐに直すことができた。
1	・なんどもまちがひ、注意されてもすぐに直さなかった。
3	・よき書か、おしやべりをして、よく話し合えて評価できた。
2	・よき書かおしやべりをして、話し合えないことがあった。
1	・よき書かおしやべりが多く、話し合えなかった。
3	・間違いを訂正し、書き直して書き直した。
2	・間違いを訂正し、書き直した。すぐに直すことができた。
1	・間違いを訂正し、書き直さなかった。訂正してもらってすぐに直さなかった。
3	・指示通りに正確に作業することができた。
2	・指示をよく聞き、間違えないように書けるようになった。
1	・わからなくなったときにすぐに質問することができた。
2	・わからなくなったときに、すぐに質問することができた。
1	・わからなくても質問しなかった。
3	・自分から報告で書けた。
2	・作業が終わったときに自分から報告できた。
1	・先生に声をかけられてから、すぐに報告できた。
1	・先生に声をかけられても、すぐに報告できなかった。

図4 改定後のルーブリック評価表

Cグループ 「作業日誌とルーブリック評価表」活用の結果	
自己評価における生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が毎回おなじように「○」を付けるだけになっている。また、自分から「△」の評価をすることが難しい。</li> <li>目標設定がその日の活動と一致していない。</li> <li>作業ができた時間をグラフで表す様式のものに向いている生徒もいる。</li> <li>ルーブリック評価表を活用できていない生徒もいる。</li> <li>目標と反省の「ものさし」になるようなものがあるとよい。目標や反省の基準として数量（作業量）がわかりやすいのでは。</li> </ul>

<p>改善案と具体的な支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標としてふさわしいキーワードを選択肢として記入欄に載せる。（自分で目標決めや自己評価ができるようにする。）（図5-1, 3, 4）</li> <li>・ルーブリック評価を5段階から3段階にする。</li> <li>・評価をシンプルにした。</li> <li>・校内実習日誌とリンクさせる。（図5-2）</li> <li>・友達の良いところにも気づきを多くもたせるようにする。</li> <li>・◎○△の評価基準について説明し、生徒一人ひとりが感じている評価基準をそろえた。</li> </ul>
<p>生徒の変容 (成果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標の設定がしやすくなり、日誌記入のスピード向上や作業への取り組み改善が見られた。</li> <li>・以前は目標内容がパターン化していたが、自分で考えてから書き始めるようになったり、前日の課題を目標として記入したりするようになった。</li> <li>・教師の評価欄を設けたことで、生徒が高評価の数字ばかり記入したとしても教師からの評価で気づきを促すことができた。</li> <li>・作業中に注意されたことを日誌の自己評価や反省欄に記入することができるようになった。</li> <li>・それぞれの作業班に合ったルーブリック評価表にしたことで、個々の目標に取り入れたり、評価しやすくなったりした。3段階にしたことで生徒が判断しやすくなった。</li> <li>・反省項目を「良い・もう少し・次がんばる」の内容に変更したところ、生徒が注意されたり失敗したりしたときに○△×よりも選びやすくなった。（図5-1）</li> <li>・作業中、頑張りたいことについて自分から話題にする様子がみられた。</li> </ul>
<p>課題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業班の活動内容によっては、目標設定や反省の時間を十分に長く設定することが難しい。</li> <li>・自己評価が難しい生徒は、自己評価より他者（教師の）評価が中心となる。</li> <li>・文字や数字で記述するのが難しい生徒の気づきや思いを引き出す支援方法の検討が必要。（言葉かけ、承認、励まし、見守り 等）</li> <li>・生徒によっては、5段階に細分化したルーブリック評価のほうがより高い目標を意識できる。</li> <li>・◎、△の基準について。目標が達成されたから◎なのか、目標以上にがんばったから◎なのか。また、△はどのように判断するか。</li> <li>・生徒がその日の作業内容等に応じて自分の課題を記入できるように目標欄や項目欄に空欄を設けとよい。</li> </ul>

図5 改定後の作業日誌様式および記入の様子

9月6日 火 雨

作業内容: 豆の選別

目標と反省:

目標: 講師のアドバイスを参考に自分のペースで作業を完了させること

振り返り: 豆の選別に注意して作業を進めた。

達成度: ほぼ完了。時間内に完了した。

反省点: 豆の選別に注意して作業を進めた。

できたこと: 豆の選別作業を完了させた。

振り返り: 豆の選別に注意して作業を進めた。

目標達成度	自己評価	他者評価
達成した	◎	◎
達成できなかった	◎	◎
達成できなかった	◎	◎
達成できなかった	◎	◎

先生から: 豆の選別に注意して作業を進めた。

9月10日 土 晴

作業内容: 豆の選別

目標と反省:

目標: 講師のアドバイスを参考に自分のペースで作業を完了させること

振り返り: 豆の選別に注意して作業を進めた。

達成度: ほぼ完了。時間内に完了した。

反省点: 豆の選別に注意して作業を進めた。

できたこと: 豆の選別作業を完了させた。

振り返り: 豆の選別に注意して作業を進めた。

目標達成度	自己評価	他者評価
達成した	◎	◎
達成できなかった	◎	◎
達成できなかった	◎	◎
達成できなかった	◎	◎

先生から: 豆の選別に注意して作業を進めた。

図5-1

図5-2

環境班 作業日誌	
1月 28 日 月 曜日	
作業内容 7天目の力アイルトコースター	
目標と反省	
目標① 作業、技術面	反省①
集中する できない 作業する	反省① 〇.△などで記入してもよい
思い通りに 作業する	
道具を正しく 使う	
準備、道具 を揃える	
目標② 態度面	反省②
あいさつ 前事 報告 する	反省② 〇.△などで記入してもよい
よりかえりチェック	自己評価 先生から
あいさつ、進事ができたか	〇 〇
集中して作業することができたか	△ 〇
先生のはなしをよく聞いて作業できたか	〇 〇
先生から	
よかったこと、できるようになったこと	次にがんばること
進捗や報告を大きな声で 言うことができてきました。	アイルトコースターの時に 集中ができていたので 頑張りました。

図5-3

紙工班 作業日誌	
1月 27 日 金 曜日	
作業内容 紙工班のつくり	
目標と反省	
目標① 作業、技術面	反省①
実行する できない 作業する	反省① 〇.△などで記入してもよい
思い通りに 作業する	
道具を正しく 使う	
準備、道具 を揃える	
目標② 態度面	反省②
あいさつ 進事 報告・質問 する	反省② 〇.△などで記入してもよい
よりかえりチェック	自己評価 先生から
時間をもまれたか(運別しない、時間いっぱい作業する)	〇 〇
わすれものはなかったか	〇 〇
先生のはなしをよく聞いて作業できたか	△ 〇
先生から	
よかったこと、できるようになったこと	次にがんばること
紙工班の先生と一緒に 作業することができました。 スクリーン押しも できるようになりました。	集中ができていないので 集中できるように 製品作りに取り組みます。

図5-4

### (3) 研究授業および授業研究会

#### ① 授業提案：作業学習「環境班」

研究授業日時：令和4年1月29日（金）

授業研究会日時：令和4年1月20日（月） 場所：高等部職員室

<指導略案および資料>

資料1 参照

<授業者より>

- ・環境班は、一般就労を目指す生徒が多いが、A型やB型を目指す生徒もいる。
- ・対象生徒A：一般就労を目指している。作業にまじめに取り組むが、作業中ペアを組む相手によっては私語が多くなることが課題。
- ・対象生徒B：自分から報告することが課題である。少しずつ答えられるようになってきたが、質問には単語で答え、です・ますを使った返答は難しい。書くことがゆっくりなため、日誌の様式は簡単なものを使用。手順表が有効。

<質疑応答>

- ・ペアで相談して解決するという方法は環境班の生徒にとって非常に有効な方法を感じた。ペア同士で評価しあう場面はあるか
  - 今はないが、今後取り入れていきたい。
- ・紙工班では、作業日誌のルーブリック評価を全部「3」にしてしまう生徒が多い。何ができ何が課題かふりかえられる取り組みを行いたい。
  - 紙工班の生徒の実態（振り返りが難しい生徒）としては、教師同士で生徒の課題を確認しあう必要がある。
- ・生徒Aが作業中にペアの生徒と「ぞうきんをどこに置くか」と相談する場面があった。わからないときに一緒に考えて決定し、次の作業に進んでいた。お互いに助け合

うことも良かったが、「教師に確認したほうがよい」という判断が必要な環境設定も行ってはどうか。

→できるだけ自分たちで解決することができるようにペアバランスを考えている。  
今後の授業に取り入れていきたい。

- ・手順表の改善について詳しく教えてほしい。

→実際に使用している生徒の意見をもとに、必要な項目、色分けなど改善した。

<助言（小原副校長）>

- ・一人ひとりの特性をとらえて生徒に対してていねいに対応している。
- ・生徒が窓の清掃をしている様子を見学したかさい農産の社長さんが、窓ふきの手順表を見て感心し持ち帰ったことがあった。非常に技術の高い作業を行っている。
- ・環境班の仕事は高度。手順表を読む、実施する、反省し評価する、指導を受けて改善する…という流れを生徒も理解し、真剣に取り組んでいる。
- ・ペアを組む利点は、できない場合のことを考え、お互いに助け合えることである。
- ・人間として成長していけるすばらしい授業である。

② 授業提案：2A「現代文」

- ・生徒の実態により職員の参観は行わず、授業や自己評価の様子を撮影した動画を全体で視聴。（授業提案のみ。質疑応答はなし。）

<指導略案および資料>

資料2 参照

#### (4) 学部研修会

「卒業後に生かせる評価～適切に自分を見つめなおすための自己評価の在り方について～」

講師：岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当 福田要 氏

日時：令和4年10月26日（水）

場所：本校図書室

講演内容：1 自己理解とは  
2 キャリア発達とライフスキル  
3 働くカタチ  
4 セルフマネジメント

- ・適切な自己理解（自己評価）とは、子どもの自己理解と他者の理解が一致すること。一致するためには「他者から見られる自分」の認識が必要であり、それは9歳程度の水準である。
- ・自己有用感を育てることも大切。（働くことや自分の役割がどのように役立つのか）
- ・セルフマネジメント（自分のための支援、目標とする行動、自己モニタリングなど）
- ・観察可能な具体的な目標設定や評価の基準、自己評価できたことへの称賛を行う。

---

## 5 実践のまとめ

### (1) 成果と課題

- 作業日誌や自己評価シートの様式を生徒の実態を考慮しながら検討し改善したことで、生徒が自分の課題を明らかにし、授業中何を頑張ればよいかわかりやすくなった。そして自信をもって自己評価をおこなう生徒が増えてきている。
  - 自己評価への支援方法として、目標を言葉にして直接確認したり、活動内容や取り組みの様子について具体的に対話したりして、振り返りと生徒の気づきを促す工夫が行われている。
  - 研究に関わった高等部職員にアンケート調査したところ、「生徒の変容が見られた、少し見られた…85%」、「変容はなかった…15%」であった。生徒の変容を感じている職員が多いことが分かった。
- 
- 取り組み期間が1年未満と短いことから、まだ成果につながらない（変容がみられない）生徒もいる。アンケート結果からも、その現状がうかがえる。
  - 自己評価の基準（◎、△など）について見直しや検討が必要。
  - 自己評価が難しい生徒への支援方法の検討が必要。
  - 他教科との自己評価の共通性があるとよい。

## （2）まとめ

生徒の実態と学習内容を考慮しながら、生徒がどのようにふりかえればよいのか、そのためにどのような支援が必要かということを、高等部全体で検討し、改善・実践することができた。この実践を経て、課題が明確になる→意識して取り組むことができる→頑張ったこと（意識して取り組んだこと）に対して自己評価できる→達成感や自己有用感につながるという流れが改めて明らかになった。生徒自身がわかりやすい目標設定と、生徒の実態に合った自己評価方法を行うことにより、進路決定や将来の生活において重要な「自己理解」へとつながる自己評価ができると考える。

この自己評価が1つの教科に限定されずに、授業全体または学校生活全体での様々な学びの中で行うことができ、生徒が自分自身にフィードバックすることで、自分自身の生活をさらに豊かにすることができるのではないだろうか。

高等部の生徒の実態も多様であり、支援方法も異なる。自分自身で評価することが難しい生徒もおり、それぞれの生徒が適切に自己評価するための方法について今後も継続して研究する必要がある。1年次の研究で明らかになった成果や課題を踏まえ、2年次ではこの課題解決を目指しながら自己評価によるフィードバックを他の教科にも応用していけるような研究を進めていきたい。

高等部作業学習 環境班指導略案

日時：令和4年12月 9日（金）2校時～4校時

場所：学習室、南北棟の廊下、太鼓道場、  
北棟南棟の男子トイレ、及び多目的トイレ

対象生徒：環境班生徒7名（男子7名）

授業者：阿部文子（T1）高橋教子（T2）

1 題材名

モップ交換、トイレ清掃

2 題材の目標

知識と技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
・自分の役割を理解し、集中して丁寧な作業をすることができる。	・様々な状況において、教師への報告、相談などの必要性を判断し、伝えることができる。	・効率的な作業をするために、改善点や工夫点を考え、仲間と協力しながら取り組むことができる。

3 対象生徒の自己評価における実態と本時の目標

生徒名	自己評価における実態	本時の（個人）目標
A	<p>・「関心、意欲、態度が良好だったか」は3で評価していることが多い。意欲的に活動し、手を止めず作業している。</p> <p>・「適切な挨拶、返事、言葉遣いができたか」は2が多い。それが課題だと感じ、言葉遣いに関する目標を掲げることが多い。作業場所や内容によっては、周囲に感わされ、特定のメンバーと私語をしてしまう傾向がある。それについて反省する記述があった。</p> <p>・「指示通り作業できたか」は、作業全般、集中して丁寧な作業を目標にすることが多く、3段階の3を評価が多い。教師からも丁寧に行っているという評価を受けている。</p>	<p>・周囲の安全に気を配りながら集中して作業ができる。</p> <p>・私語を控え、作業に関係する相談と報告を意識しながら作業ができる。</p>
B	<p>・「時間を守れたか」については、2が多い。作業内容にもよるが、周囲の状況に気をとられて手を止めてしまうため、時間いっぱい作業できていないことがある。作業開始・終了時刻は守られている。</p> <p>・「忘れ物はなかったか」は3が多い。普段の学校生活では忘れ物は殆どなく、整理整頓もできる。</p> <p>・「先生の話を聞いて作業していたか」は2が多い。分からなくても依頼や質問することは難しい。また、返事や反応がはっきりしないことがある。本人もそれが課題だと感じている。作業の指示に従う姿勢は見られる。</p>	<p>・伝わる声で返事や作業終了の報告ができる。</p> <p>・役割が分かり、時間いっぱい作業に集中できる。</p>



4 授業の展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意事項	準備
	<p>1 入室・あいさつ</p> <p>2 日誌記入</p> <p>3 朝礼一当番が進行する ・当番に注目する</p>	<p>・ホワイトボードに本時の作業（前半・後半）に必要な内容や役割を提示しておく。</p> <p>・過去の日誌の内容にもとづき目標を記入するように声がける。</p> <p>・周囲の安全を確認し作業すること、自分の役割確認の上、ペアと協力することを約束する。</p> <p>・ペアで解決できない場合は、リーダーは速やかに担当教師に報告するよう約束する。</p> <p>・指示を受けた後の返事や終了の報告を忘れず行うよう促す。</p>	<p>ホワイトボード</p> <p>日誌</p> <p>日誌用紙</p> <p>筆記用具</p> <p>進行表</p>
10:00	<p>4 <b>前半作業</b></p> <p>モップ交換（回収・モップのほこり取り作業）</p> <p>○ほこり取り作業 ◎B、C（高橋）</p> <p>○回収（北棟2階） ◎D、E</p> <p>○回収（北棟1階と体育館） ◎F、A（阿部）</p> <p>○モップ運び◎G</p> <p>・回収作業が終わったペアはほこり取りやモップの洗濯をする。</p> <p>・北棟作業の全てのペアが終了した後、班長の声掛けで休憩に入る。 （休憩10分）</p> <p>5 <b>後半作業</b></p> <p>モップ交換（ほこり取り作業）</p> <p>トイレ清掃</p> <p>○ほこり取り作業 ◎B、C ○北棟2階男子トイレ G</p>	<p>・T1は3名の生徒、T2は4名の生徒の様子を見て必要な支援をする。</p> <p>・B、Cには「報告」の項目を入れた手順表を準備する。</p> <p>・Gには、活動範囲が広いので、通路の安全確保に心掛け、運んだモップの管理に気をつけるよう声掛ける。</p> <p>・T1は4名の生徒、T2は3名の生徒を見守り、周囲の安全を確認し作業すること、ペアと協力することを約束する。</p> <p>・報告を忘れていた場合は、手順表の報告欄を注目するよう促し、気が付かせるようにする。</p>	<p>・モップ用ケース</p> <p>・専用の台車</p> <p>・回収したモップ</p> <p>・掃除機（学習室）</p> <p>・掃除機（倉庫）</p> <p>・回収したモップ</p> <p>・掃除機</p> <p>・トイレセット（清掃手順表）</p> <p>・ハイター（教師対応）</p>

<p>○北棟 1階男子トイレと 多目的トイレ ◎F、A (阿部)</p> <p>○南棟 1階男子トイレと 多目的トイレ ◎D、E</p> <p>・トイレ清掃が終わった生徒は モップのほこり取り、Gは モップの洗濯またはトイレ用雑 巾などの洗濯をする。</p> <p>・作業終了 ・手洗い</p> <p>7 日誌記入</p> <p>8 終礼一当番が進行する 9 退室・あいさつ</p>	<p>・トイレの状況等がいつもと違い、ペアで解決でき ないことがあった場合は速やかに教師に報告する よう促す。</p> <p>・トイレを使用したい生徒がいた場合は、速や かに譲り、ペアが行っているトイレ清掃の手伝 をするように促す。</p> <p>・班長から声掛けをするよう促す。 ・石鹸でしっかり洗うことを促す。</p> <p>・今日の目標に対する振り返りでは、目標と照ら し合わせて考えたことや工夫したことを記入する よう声掛ける。 ・生徒自身の評価によっては、どうしたらよいか など聞き出し、生徒の言葉を引き出す。 ・教師が記入した言葉に下線を引くなどし、次時 の目標の手掛かりになるようにする。</p>	<p>日誌 筆記用具</p>
---	---	--------------------

5 自己評価用紙（作業日誌）（別紙）

6 評価の観点

ア 本時の評価（本時の個人の目標の評価）

- A
- ・周囲の安全に気を配りながら集中して作業ができたか。
  - ・私語を控え、作業に関係する相談と報告を意識しながら作業ができたか。
- B
- ・役割が分かり、時間いっぱい作業に集中できたか。
  - ・伝わる声で返事や作業終了の報告ができたか。

イ 支援の手立ての評価（本時の個人の目標に対して）

- ・協力しながら取り組める作業内容とペアであったか。
- ・自分の役割や報告を意識しながら取り組める手順表だったか。

A

12月 9日	金曜日	天気 曇り	気温 7℃	湿度 0%
作業内容と目標 E1・E2女トイレ 作業内容 掃除機				
目標と反省				
目標①	作業、技術面 (集中して作業、掃除機、指示もよく聞き、手順、道具名、安全に使用する など)			
作業、技術面	集中して掃除機をかける。			
反省①	掃除機は、掃除機をかける時に音がうるさい。			
目標②	態度、態度面 (あいさつ、返事、質問、報告、言葉づかい、身だしなみ、仲間、協力 など)			
態度、態度面	あいさつ、返事、質問、報告、言葉づかい、身だしなみ、仲間、協力			
反省②	返事の時、口元が笑ってしまっている。			
よかったこと できたこと 楽しかったこと(注意され たこと)				
掃除機をかける時に音がうるさい。掃除機をかける時に音がうるさい。				
よりの入りチェック				
適切な挨拶、返事、言葉づかいができたか	自己評価	先生から		
関心、意欲、態度が良好だったか	3	3		
指示通りに正確に作業することができたか	3	3		
先生から		先生から		
よかったこと	よかったです。掃除機をかける時に音がうるさい。			
次ががんばること	掃除機をかける時に音がうるさい。掃除機をかける時に音がうるさい。			

B

12月 9日	金曜日	天気(月)	気温 7℃	湿度 0%	
作業内容と目標 作業内容 E1・E2女トイレ 掃除機					
目標と反省					
目標①	作業、技術面 (集中して作業、掃除機、指示もよく聞き、手順、道具名、安全に使用する など)			反省①	O.△などで記入してもよい
作業、技術面	集中して作業する	掃除機をかける時に音がうるさい。	掃除機をかける時に音がうるさい。	掃除機をかける時に音がうるさい。	掃除機をかける時に音がうるさい。
反省①	掃除機は、掃除機をかける時に音がうるさい。				
目標②	態度、態度面 (あいさつ、返事、質問、報告、言葉づかい、身だしなみ、仲間、協力 など)			反省②	O.△などで記入してもよい
態度、態度面	あいさつ	返事	質問	報告	言葉づかい
反省②	返事の時、口元が笑ってしまっている。				
よりの入りチェック					
時間をまもれたか(遅刻しない、時間いっぱい作業する)	3	3			
わすれものはなかったか	3	3			
先生のはなしをよく聞いて作業できたか	3	3			
先生から		先生から			
よかったこと	よかったです。掃除機をかける時に音がうるさい。				
次ががんばること	掃除機をかける時に音がうるさい。掃除機をかける時に音がうるさい。				

<資料2 現代文指導略案および資料>

高等部第2学年 国語科「現代文A」指導略案

日時：令和4年11月8日（火）6校時  
 場所：2・3A教室  
 対象生徒：男子2名  
 授業者：村上美千

1 単元名・題材名  
 小説を読む（三） ころこ 夏目漱石

2 単元（題材）の目標

知識と技能 （ア）	思考力・判断力・表現力 （イ）	主体的に取り組む態度 （ウ）
・小説を読んで考えたことを、正しい言語表記で表現している。	・登場人物の性格・心理・行動を読み取りその変化をつかむ。	・登場人物の生き方と自己の生き方を対比して考えようとしている。

3 対象生徒の自己評価における実態と評価規準

生徒名	自己評価における実態	単元（題材）の評価基準
J	・自己評価を低めにすることが多い。 ・評価＝自分ができなかったところと捉えている	・わたし（先生）のこれまでの行いについて、自分の考えを書くことができる。（ウ） ・選んだテーマについて条件に合わせて考えを書くことができる。（ア）
K	・過大評価気味な自己評価をすることが多い。 ・学習活動で提示されていることと、実際に行っていることの認識が一致していないことがある。	・わたし（先生）のこれまでの行いについて、自分の考えを書くことができる。（ウ） ・選んだテーマについて正しい言語表記で自分の考えを書くことができる。（ア）

本時ふりかえりシート

< 単元 > 振り返りシート 【現代文A】 2年 氏名

単元名	小説を読む（三）
	・ 森
	・ ころこ
	J

目標	A知識・技能 <input type="checkbox"/> 分かりにくい言葉・表現を辞書で調べている。 B思考力 <input type="checkbox"/> 筆者の考察と自分の意見を照らし合わせて文章を読む。 C主体性 <input type="checkbox"/> それぞれの学習を通して、日本文化に触れる。
----	---

「学習内容の理解」についての自己評価 11. 2. TUE

観点	学習活動	自己評価（A・C記述式）
A 知識 技能	・分かりにくい言葉や表現を辞書で調べている。	C 全然しませんでした
B 思考 判断 表現	・登場人物の生き方と自己の生き方を比較する。 ・登場人物の性格、行動、心理を読み取り、変化をつかむ。	B 比較はできた B 変化もわかるけれど、変化は、まだ
C 主体性	・作品を読んで、近代の小説について知る。	A ありました

A（できた） B（できたところもある） C（できなかった）

先生への質問や要望

特に質問や要望はありません

< 単元 > 振り返りシート 【現代文A】 2年 氏名

単元名	小説を読む（三）
	・ 森
	・ ころこ
	K

目標	A知識・技能 <input type="checkbox"/> 分かりにくい言葉・表現を辞書で調べている。 B思考力 <input type="checkbox"/> 筆者の考察と自分の意見を照らし合わせて文章を読む。 C主体性 <input type="checkbox"/> それぞれの学習を通して、日本文化に触れる。
----	---

「学習内容の理解」についての自己評価

観点	学習活動	自己評価（A・C記述式）
A 知識 技能	・分かりにくい言葉や表現を辞書で調べている。	C 「森」も「ころこ」も、さっぱりしてない
B 思考 判断 表現	・登場人物の生き方と自己の生き方を比較する。 ・登場人物の性格、行動、心理を読み取り、変化をつかむ。	B 比較はできた B 変化もわかるけれど、変化は、まだ
C 主体性	・作品を読んで、近代の小説について知る。	B ありました

A（できた） B（できたところもある） C（できなかった）

先生への質問や要望